秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
http://www.city.akita.akita.jp/

市長●ほっぺ!!コラム

市長●佐竹敬久

秋の夜長に　お月見談義

今年は台風の当たり年で、とりわけ八月二十日の十五号では、日本海側から四十メートルを超える強風が吹きつけ大きな爪痕を残しました。

被害に遭われたみなさまには心からお見舞い申しあげます。

特に、これまで経験したことのない大規模な塩害により、稲や果樹など農業分野に多額の被害をもたらしたことから、現在、関係機関とともに市の支援策をとりまとめ中ですので、農家のみなさまには気を取り直してがんばっていただきたいと思います。

さて、秋半ばススキが目立つころには夜空も澄み渡り、特に月がきれいに見える旧暦の八月十五日を「十五夜」、九月十三日を「十三夜」といって、月を仰ぐ縁側や窓辺にススキを飾り、豆や栗、里芋、季節の果物、団子などをお供えし、一家団らんの中で「お月見」を楽しむ風習があります。

ちなみに今年の新暦では、十五夜が九月二十八日、十三夜はこの後の十月二十六日にあたります。

心静かに月を仰ぐ幸せ…

我が家でも子どもが小さい時分には、昔から家に伝わった方法でお供え物を飾り楽しんでいましたが、子どもが大きくなった今では忙しさにかまけて、ついおろそかになりがちです。

しかし、私も年のせいか秋の夜長に満点の月を仰ぐと、ふと子どものころが思い起こされるようになり、家族皆で縁側に出て、ウサギが餅をついているお月様を楽しみながら団子や豆を食べたことを涙が出るほど無性に懐かしく思うようになりました。

季節の変化が明確な日本には、四季折々に庶民が楽しめるほのぼのとした伝統行事が数多くあります。

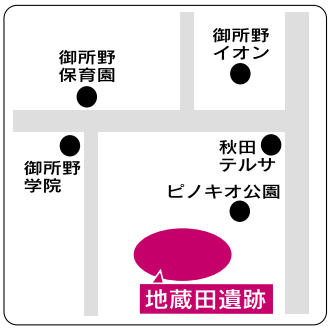
その多くは身近な自然との接点の中で形作られたもので、お花見やお月見、さらには食欲の秋の「鍋っこ」にしても、人は自然に楽しませてもらうというところに位置し、自然に大きく踏み込むことはしない謙虚な楽しみ方を旨としています。

情報があふれ、物質面ではとどまることを知らないほど豊かになったものの社会環境は悪化の一途をたどり、また台風の多発も地球的な環境変動によるのではないかともいわれ、百年後の日本は熱帯性気候になると予測される中で、たとえ物質的には水準が多少下がろうとも、今少し心の余裕をもって暮らしを楽しむことができないものか、真剣に考えるべき時期にきているような気がします。

夜空に浮かぶお月様を見ても、ただの天体のひとつとしてしか受けとめられない人生と、自然の織りなす美学に季節の変わり目を重ね合わせながら心の安らぎを楽しむ人生のどちらが幸せでしょうか。

★郷土で協働④

見学、復元参加は自由です。団体で希望のかたは文化振興室へご連絡ください。tel(866)2246



ヤッター、骨組完成！　弥生っこ会のみなさん

力を合わせてヨイショ！

上棟の儀式では火おこし体験も

地蔵田遺跡 弥生っこ会

弥生人になって竪穴住居を復元中！

御所野総合公園内にある地蔵田遺跡「弥生っこ村」。日本で初めて発見された、木柵で囲まれた弥生時代の集落跡として、平成八年に国の史跡に指定されています。

市民参加は初の試み

この貴重な遺跡を当時の姿によみがえらせようと、二年前から市民参加で木柵と竪穴住居の復元作業が進められています。市民参加による国指定史跡の復元は全国で初めての試み。いまから二千二百年前の竪穴住居を復元しているのがボランティア「弥生っこ会」のみなさんです。

すでに完成した二棟の竪穴住居は、専門の業者が復元しましたが、最後の一棟は市民の手で復元しようと、今年の春、市教育委員会の呼びかけで、四十九人の“弥生人”が集まり会を結成。秋田建築専門学校の生徒が作成した設計図をもとに、七月から直径八メートル、高さ六メートル、中の広さ約三十畳の竪穴住居の骨組みに取りかかりました。

毎日が苦労の連続

猛暑が続く中、大工さんの指導を受けながら、会員が一から作業にあたりました。会長の鈴木銀一さんは、「さまざまな形をした丸太を、縄で縛りながら組んでいくのは思った以上に大変でした」と振り返ります。

みなさん初めての体験に苦労の連続だったようですが、ヤル気とチームワークの良さで乗り切り、予定どおり二か月ほどで骨組みが完成。九月十八日には、その完成を祝い上棟の儀式を行いました。儀式では、会の代表が弥生式の麻製の貫頭衣に身を包み、清めの儀式を行い、集まったみなさんにもちをまいて振る舞いました。

あなたも“弥生人”

鈴木会長は「竪穴住居ができたら、次は土壙墓（どこうぼ）や土器棺墓（どきかんぼ）といったお墓を整備したい。ゆくゆくは出土した物を展示する資料館も造りたい！」と意欲満々。また、「遺跡を復元するだけでなく、たくさんの人に遺跡への理解を深めてもらおうというのもこの会の目的の一つ。市民のみなさんに『弥生っこ村』に足を運んでもらい、楽しい体験をしてもらいたいですね」と話します。

今後は十月から屋根の茅葺（かやぶ）き作業に取りかかり、十一月末の完成をめざしますが、その間にも、市民のみなさんに“弥生人”の生活を体験してもらおうと、さまざまなイベントを企画中です。詳しくは広報あきたでお知らせします。

市民の手によって愛情をもって復元される地蔵田遺跡。これからもみんなで大切にして、未来へ平成の竪穴住居を引き継いでいきたいですね。